

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|---|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに」の理念の下、地域住民の方と一緒に行事を行い、地域の方と顔なじみになる事で地域の一員として生活される。 | ○ 今年も10月に「認知症サポート養成」を行う予定である。地域に1人でも多く認知症の理解を広める事で。認知症になっても安心して暮らしていけるようにしたい。 |
| 2 | <input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、玄関や事務所に掲示して、いつでも職員が理念を振り返る事が出来ている。声掛けなどにも、ゆっくりと穏やかな口調で話し掛けるようにしている。 | |
| 3 | <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | ご家族には、面会時、家族会の時などに折にふれて伝えている。また、久米だより、地域の方との行事を活用しながら、地域の方の力を感じてもらっている。地域の方には、運営推進会議、講演会・町内会の集まりの際に伝えている。地域の方からも「本当に認知症の方ですか」と皆さんびっくりされている。 | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 散歩やごみ出しの時、近所の方と挨拶を日頃からしている。近所の方が、おすそ分けに來られたり、お茶を飲みに來られたり、近所の子供がふっと遊びに來たりしている。また、火災通報システムの連絡網に近所の方も登録され、協力してくださる。 | |
| 5 | <input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会にも加入しており、回覧板をまわしたり、受け取ったりしている。また、高齢福祉大会・文化祭・町内の夏祭り等に参加したり、ホームの行事・お祭り・講演会・各教室等にも参加され、お互いに交流を深めている。地域の学校の先生が定期的にギター演奏に來られている。 | ○ 今年行った「看取り」の講演会に参加された地域の方が、講演会をがきっかけとなり、自宅で看取りを実践された。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 介護予防教室・認知症サポーター養成・アロマセラピー教室などを開催し、地域高齢者に参加を呼び掛け、また認知症の相談等も行っている。 | ○ | 地域の介護施設に事業所の認知症ケアの取り組みを研修として依頼されている。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価を勤務職員(夜勤・遅番)全員で話し合い検討している。自己評価、外部評価の結果については、誰でも見れるように、ホールに掲示してある。外部評価の改善計画については、定例会で話し合い改善につけて計画を作成した。 | ○ | 全職員に改善に向けて意識してもらえるように、継続的に呼びかけや全職員を巻き込むようにしていく。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 併設の小規模多機能と合同で開催している。ほぼ10人くらい参加されている。活動報告や稼働状況、参加者からの要望、提案、意見などが出され、意見交換の場になっている。管理者は、その意見交換の内容を定例会の時、職員に伝えている。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所でわからない事、判断出来ない事など、市町村担当者に相談している。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 毎年、折にふれ、パンフレット等を使用して、職員間で制度の理解を深めようとしている。入所前から成年後見制度を利用しておられるご利用者様がいます。 | ○ | 10月の施設内研修の課題となっており、研修予定である。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎年、定例会時を利用し、職員間で学ぶ機会を持っている。また、発見時の対応方法についても周知している。職員は、自己の日々のケアの振り返りを心掛けている。 | ○ | 10月の施設内研修の課題となっており、研修予定である。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は、時間をとって説明し、ご家族が納得出来るように心掛けている。特に月末付近でご契約される場合は、契約の前に家賃等の説明をしている。また、事業所の出来る事、出来ない事をご利用者様の状態に合わせて、伝え話し合っている。解約時には、解約に関する説明事項を説明し、了解を取っている。 | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ほとんどのご利用者様が、ご自分の意見をはっきり言われている。言われた要望や意見に対しては、定例会や朝の申し送り時を利用して、検討している。また、ご利用者様がご自分で併設施設の職員に気持ちを話しに行かれている。その情報を共有している。 | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月の請求書の送付の際に、ご利用者様の様子を報告している。また、面会時にも様子をお知らせしたり情報交換を心掛けている。ご利用者の健康状態、心配事など急ぐ用件は、その都度電話で連絡している。廊下にご利用者の日々の暮らしの写真を並べており、ご家族様にも面会時、見て頂けるようにしている。 | ○ 職員の異動は、少ないが、異動時は家族にその都度伝えて行きたい。今年の家族会は、講演会を兼ねて行ったが、従来しているご利用者の日々の暮らしをビデオで見てもらいたい。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会があり、意見交換を行っている。また、重要事項説明書に松江市、国保連等の苦情窓口が明記しており、契約時、ご家族様に説明している。また、面会時にご家族様意見を交換するように心掛けている。日頃からご家族様の視点に立って考えるように心掛けている。出された意見は、定例会などで話し合うようにしている。 | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定例会や面談を通して、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、介護リーダーが個々の職員の意見を聞き代表で管理者に伝えている。今までに、助成金、施設内研修、勤務時間変更、業務改善など職員の意見が反映された。 | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 現在、ターミナルケアを行っているが、ご利用者様の状態に応じて、夜間2人体制など柔軟な体制を整えている。また、日中も状態に応じて1人多く職員を配置している。 | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 今年の4月に1人、併設施設から異動を行ったが、日頃から併設施設とも、ご利用者様、職員とも自由に行き来し、なじみの関係を継続しているので、特に違和感なく受け止めてもらった。ここ2年間職員の離職はない。 | ○ 今までも新しい職員が夜勤をする場合も、介護リーダーと一緒に夜勤をし、ご利用者様が困らない体制を整えている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護リーダー、研修係りが主となり、計画的に行っている。今年の4月からは、全職員で今一度認知症を理解する事を目標に、認知症の基礎から、毎月1回のペースで施設内研修を行っている。3月までは、介護研修センターの巡回講習を利用した。また、施設外研修のお知らせを行い、職員の興味のある研修は、自発的な学びの気持ちに結びついている。 | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会、ブロック会に参加し、同業者との交流を図り、意見交換をしている。また、他のグループホームの職員の研修も受け入れている。 | ○ 地域の介護施設に事業所の認知症ケアの取り組みを研修として依頼されている。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 残業をしなくてもいいように、時間内に仕事が終わるように、業務改善を行っている。職員の異動が少なく、職員間でもチームワークが形成されている。 | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 管理者自ら現場に入って、職員個々の状況を把握している。その時の職員の能力に合った課題を投げかけ、職員一人一人に現状を振り返る機会をあたえている。 | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所前に自宅訪問、ホーム見学、お試し利用、各教室参加等をしながら、なじみの関係作りをし、ホーム、職員を受け入れて頂けるように努めている。面談時に生活状況を把握するようにしている。 | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | ご家族様の今までの経緯、状況を聞き取り、思いを組み取るようにしている。その思いを何処まで現実に近づけるか、また、何処までホームが支援出来るかを話し合っている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、今何に困っておられるのかの視点に立ち、その時必要なサービスを見極めて援助している。相談時、歩行訓練が必要なご利用者様には、訪問リハビリに繋げたケースがある。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前にホームに見学しに来て頂き、ホームのご利用者様とお茶を飲みながら、楽しいひと時を過ごして頂いたり、各教室にお誘いしたり、職員がご自宅に行ったりして、なじみの環境を作るようにしている。入居後もご家族様と連携をとりながら、馴染んで頂けるように配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | ご利用者様が歩んで来られた時代、経験された事などを教えて頂き、喜怒哀楽を共にし、ご利用者様の気持ちに寄り添うようにしている。朝は、ご利用者様、職員総出で掃除に取り組んでいる。その姿は、ホームで生活を共にする同志そのものである。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様とこまめに連絡を取り合い、情報を共有し、共に考えるように心掛けている。ご利用者様の日々のエピソードを伝えていく中で、ご家族様と喜びや悲しみを共にしている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | ホームでの生活でご利用者様が出来る力、役割を伝える事で、ご家族様の意識が変わり、ご利用者様との関係がよくなっている。また、関係がよくなった事で、自宅に外泊につながったケースもある。ホームの行事には、ご家族様をお誘いしている。夏祭りでご利用者様が歌を披露され、ご家族様感動されていた。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご利用者様が住んでおられた地域の友人、知人の方が面会に来られている。地域から来られた方が多いので、地域の行事に参加されると地域の方が声を掛けて下さる。また、在宅から来られたご利用者様は、以前のケアマネさんが遊びに来られたりされている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | ご利用者様同士の相性に配慮しながら、テーブルの座られる場所も考えている。うまくいかない時は、その都度職員でアイデアを出しながら検討している。ご利用者様同士が洗濯物干しなど誘いあってされている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 長期入院になり、退所されたご利用者様には、退所後もお見舞いに行ったりしている。また、退所されたご利用者様のご家族様が、ホームに来られたり、スーパー等で会うと状況を教えて下さる。講演会、夏祭りにも参加されている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご家族様の協力を得てセンター方式を活用し、その人らしく暮らしに近づけるためには、何が必要で何をどうしたらいいか、定例会で話し合っている。気持ちを話されないご利用者様には、そのご利用者様の視点に立ち考えるようにしている。日々のご利用者様のつぶやき、言われる事を参考に検討している。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族様の協力を得てセンター方式を活用し、馴染みの暮らし方の情報収集に努め、職員間で情報を共有している。また、普段の会話からも情報を収集するためにアンテナをはっている。入居時自宅から馴染みの物を持って来て頂けるように、ご家族様にお願いしている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 何事もまずは、お願いしてみても、出来る事・出来ない事を知るようにしている。出来る事は、継続して支援し、出来ない事には、こだわらないようにしている。ご利用者様の中には、出来る事を継続してやった結果、自信を取り戻され、就労の希望を言われる。ご家族様も「お婆ちゃんは、90になって初めて自立出来るなんて、幸せね。」と言われていた。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ご利用者様、ご家族様の意向を大切に、定例会で職員全員で話し合っている。生活の中で出来る事、ご利用者様が力を発揮できそうな役割、活動をケアプランに入れている。実践状況は、記録やケアプラン実践表で確認し、ご利用者様のステップアップに繋げている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 状況変化に応じて、その都度介護計画の見直し変更を行っている。月に一度モニタリングを行い、サービスの経過を話し合っている。変更した内容は、その都度ご家族様に変更事項を説明している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|---|------|--|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録が「何のため」「誰のため」を職員全員が意識するようにしている。職員の気づき、介護計画の反応、職員の声掛け、ご利用者様の言葉、状態変化等を記録し、職員間で情報の共有をし、介護計画の見直しに生かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 短期入所、共用型通所、自主サービスとして、ADL教室・アロマセラピー教室等を行っておる。サービス開始前のご利用者様がアロマセラピー教室にご家族様と参加されるなどした。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域の交番、消防署、民生委員、自治会長の方と連携を取り合っている。交番の方もホームに立ち寄られる事で安心に繋がっている。また、毎日職員と地域のスーパーに買い物に出掛けている。夏まつりには、高校生のボランティア、県職員の方のボランティアも来られる。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 訪問理美容サービスを利用している。また、ブロック会議等で地域の他のケアマネジャーと意見交換している。 | ○ | 他のサービスの活用、公民館の各教室も視野に入れながら、今後対応して行きたい。 |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議の時や、その都度地域包括支援センターの方に相談、助言をして頂いている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医に2週間に一回の往診や通院で受診支援を行っている。入居前からのかかりつけ医を継続されているご利用者様もおられる。往診、ご家族様の状況に応じて通院介助も行なっている。かかりつけ医については、契約時話し合っている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|------|----------------------------------|
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | | |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | | |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | | |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | | |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ご利用者様の個人情報、鍵付きの戸棚に入れてある。職員一人一人が個人情報の大切さを理解し、取扱いには、十分に気をつけている。ケアの面でも、声掛けの仕方にも気を付けている。また、ご利用者様のプライドに配慮した対応を心掛けている。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | ほとんどのご利用者様が、ご自分の思いや希望をはっきり言われている。ほぼ毎日ご本人の希望で買い物に行かれているご利用者様、帰りたい気持ちに寄り添い、一緒に帰り道を探したり、また、自己決定が難しいご利用者様には、職員がアンテナをはり、日頃からの会話から意思を組み取るようにしている。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れはあるが、ご利用者様の体調やペースに合わせてケアしている。掃除もご利用者一人一人が出来る力で参加されている。「ちょっと向こうに行って来るね。」とご利用者様は、自由に併設施設に自由に行き来きされており、ご利用者様同志の交流や、一緒に行事を楽しまれている。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | ご利用者様皆様とてもおしゃれである。ほとんどのご利用者様が自分で洋服を選ばれている。車椅子のご利用者様も車椅子でダンスの前まで行き、洋服を職員と選ばれている。ご利用者様同志も「この色いいね。素敵だね。私も欲しいよ。」と会話がはずまれている。おしゃれには、皆様とても関心があり、鏡の前をとられるたびに、ご自分の全身のチェックをされている。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ピューラーで野菜の皮むきをして下さる方、包丁で野菜を切って下さる方、盛り付けや配膳をして下さる方と一人一人の能力に働き掛けている。下膳も一人一人の仕方で行っている。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | ご家族様からご利用者の嗜好物を聞き配慮している。抹茶がお好きな方が多く機会を作ったり、ご利用者様皆様がお好きなおしるこをおやつに職員と一緒に作って楽しまれている。 | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|--|---|------|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している | 排泄パターンを把握して誘導し、皆様日中は、トイレで排泄されている。リハビリパンツの方が普通の下着になられたり、ボクサーパンツを使用したりとおむつの軽減に力を入れている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | ご利用者様の希望によっていつでも入浴出来るようにしている。ご本人の希望で毎日入られている方も複数おられる。重度のご利用者様には状態に応じて、2人介助や併設施設の機械浴を使用している。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中の活動を豊かにして、生活のリズムを整えるようにしている。寝られないご利用者様には、原因をアセスメントし職員間で話合っている。どうしても居室で休めない日は、ホールで職員と休まれたり臨機応変に対応している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 家事中心の活動を多くしている。刺し子、歌の披露の場、ADL体操、アロマセラピー、ギター演奏など楽しみの行事もある。車椅子の方も洗濯物のしわのばし、茶碗拭き、切手貼り、柱にタコ足をつりタオルを干されたりと出来る力に働き掛けている。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご利用者様の気持ちの安心の為に、ご家族様の協力を得て少額持っておられる方もいる。 | ○ | 夏祭りのバザーなどホーム内で買い物が可能な場合があり、今年の夏祭りでは、限られたご利用者様しかバザー用品が購入出来ず、他ご利用者様から「お金持っていないから。」との声があり、来年はご家族様に協力をして頂き、支援につなげて行きたい。 |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外出を好まれるご利用者様が多く、毎日の買い物にも希望して行かれる。また、管理者、職員が市役所や銀行、薬局へ出掛ける時も一緒に行かれている。また、庭山をご自分の山と思っておられ、毎日草取りをされているご利用者様もおられる。夏は、夕食後「涼んで来る。」と外のベンチに座られて過ごされる事もある。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | ご利用者様の思いや願いをご家族様に伝え、外出支援のご協力を頂いている。美術館、選挙、お墓参り、温泉等行かれている。 | ○ | 以前行っていた一泊旅行にいけるように支援したい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話をホームでお預かりしているご利用者様がおられ、希望時や不安時にご家族様と連絡を取り合っておられる。また、ご家族様からも電話があり、その都度会話を楽しまれている。 | ○ | 年賀状など手紙を久しい方に書かれる支援をしていきたい。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 玄関戸は、いつでも開いており、訪問者に対しては、職員一同笑顔で対応するように心掛けている。憩いの場や居室でお茶を飲まれながら、ゆっくりご面会されている。以前おられたご利用者様のご家族様が「懐かしくて、寄ってみました。」と今でも遊びに来られたりしている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のケースは、今までに全くない。職員一同、ご利用者様を理解し「なぜ急に立ちあがられるのだろうか。」など理由を探り、チームでさまざまな角度からアセスメントを行っている。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は、玄関やその他の鍵をしていない。併設施設への渡り廊下も自由に行き来されている。居室から庭に出られ、草取りを日課にされたり、夕涼みを玄関のベンチでされたり、自由に過ごしておられる。職員は、さりげなく見守りを行っている。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 日中職員は、記録をご利用者様がおられるホールでしており、さりげなく見守りを行っている。夜間は、2時間おきの巡視をしている。建物の造り上事務所から一直線に居室があり、ご利用者様の動きが見守れるようになっている。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危ないので取り除くのではなく、職員でアイデアを出しながら検討し上手くいったケースがある。包丁等は、台所に閉まってあるが、要望があれば見守りのもと使っておられる。夜勤者が毎日包丁の数をチェックしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 消防署の救急救命法、避難訓練など学びの機会を持っている。また、ヒヤリハットを使い定例会で話し合い、アセスメントを十分に行い職員間の共有認識としてリスクを予測するように心掛けたり、再発防止に努めている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 毎年消防署の救急救命法の講習会を受講している。ホームで行うため職員が全員参加出来る。ご利用者様も一緒に参加されている。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎年地域住民の方、消防署の協力を得て、避難訓練をしている。また、定期的にご利用者様と職員での施設内訓練もしている。通報システムは、消防署、管理者、地域住民の方にも登録頂いている。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 転倒の危険性についても、あらかじめご家族様に伝えてい。その上でご家族様と相談し対策を考えている。ご家族様の返答からヒントを得たケースもある。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 体調の異変時申し送り等で情報を共有している。顔色や様子の変化時、バイタル測定している。また管理者、看護師に報告し指示を得ている。ご利用者様不調(便秘も含めて)が行動の障害に出る事を職員理解しており、早期発見に取り組んでいる。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の処方箋は、ケースファイルに綴じてあり、職員がいつでもみれるようになっている。薬は職員2人で確認し、飲み終わった袋で再度確認している。服薬を渡す時も日付、名前等を口に出して渡すようにしている。また、飲まれるまでさりげなく見守っている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 食事は繊維が多いメニューを心掛け、毎日しっかり体を動かして頂き、また1日1300cc以上の水分を取って頂くように工夫している。朝出る事が多いご利用者様は、朝食後ゆつくと座って頂いている。起床時に牛乳を1杯飲んで頂いている。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後口腔ケアの声掛け、見守りを行い、1人1人に合わせて支援、介助をしている。口腔ケアを受け入れてもらえない時は、さりげなく会話の中で口腔ケアの大切さを話しているうちにされるようになった。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | いろんな飲む物を少しずつこまめに飲んで頂いている。毎日摂取量を職員が把握し、飲まれないご利用者様には、原因を探ったり、何だと飲まれるのか工夫している。食事が入らない時は、ご家族様に相談し、好物を出すようにしている。食事は、ボランティアの栄養士にアドバイスをもらっている。 | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | マニュアルを作成しており職員一人一人が意識している。手洗い、うがい、手指消毒を徹底している。面会時ご家族様にも手洗い、うがい、手指消毒をお願いしている。 | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | ふきん、まな板は、その都度ハイター消毒をしている。毎日買い物に行き新鮮な材料を購入している。残り物を出さず、冷蔵庫の掃除を心掛けている。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関には、車椅子の方でも不便がないようにスロープがあり、玄関内には、靴の脱ぎ履きに不便がないように備え付けの椅子を設置してある。また、玄関先にベンチもあり、ご利用者様、地域の方が気軽に腰をおろして休んで頂けるようにしている。 | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間どこからでも、眺めがとともよく、木々や庭の花など楽しめ、日当たりもとてもよい。春は鶯、夏はせみ、蝸と心地よい鳴き声も聞こえてくる。光の調整に御簾を使用している。併設施設への続くコーナーにもソファや畳を置き、共用空間として活用している。 | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 憩いの場にソファや畳を置いたり、併設施設との渡り廊下にもベンチを置き、併設施設のご利用者様とも会話を楽しまれたりされている。また、仲のよいご利用者様同士がお互いの居室で話しが出来るように、きっかけを職員がつくっている。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族様の協力を得て使い慣れた布団類、写真、絵画、ラジオ、お茶道具等を持ち込まれている。カーテン等も好みの色や柄があるため好みのを持って来て頂いている。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 温度調節は、職員が感じる温度ではなく、ご利用者様の視点で設定するようにしている。夏は、御簾を利用している。また、汗をよくかかれるご利用者様には、個別に居室の温度を設定している。居室に24時間換気が設置してある。空気の入換えもこまめにしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車椅子のご利用者様でも洗濯物が干せるように、ホールの天板上に紐をつるしタコ足をご利用者様の高さに合わせるなど工夫している。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 個々のご利用者様に合わせ一度に多くの事を伝えず、単語やなじみの言葉でゆっくりと伝えるようにしている。混乱時原因を探り検討している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 季節のいい時は、ベランダでお茶にしたり、茶碗拭きをされたりしている。玄関にベンチ、併設施設に続く渡り廊下にもベンチがあり、活用されている。庭の草花をご自分の役割として草取りなど自発的にされている。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のどかな自然に囲まれたすばらしい環境の中、ご利用者様の出来る力を引き出し職員が黒子になる事で、生き生きとした充実した毎日を過ごされています。基本理念である”一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに”を職員一人ひとりの胸に刻み、日々の生活に取り入れています。ご利用者様も職員も個性豊かで、いつでもにぎやかな笑いがたえません。出来る事がどんどん広がり「仕事辞めらんかったらよかった。もう一度働こうかな。」と自信を取り戻され、今日もはつらつとしてホームで過ごされています。自主活動として、ADL体操教室・ギター演奏会・アロマセラピー・講演会を講師を招いて取り組んでいます。地域住民の方にも参加を呼びかけ、地域に根ざした事業所を目指しています。